

・学校の概要

酒田市立第一中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	11	25
生徒数	90	113	109	4	316	

・実践研究の概要

1. 主題（テーマ）

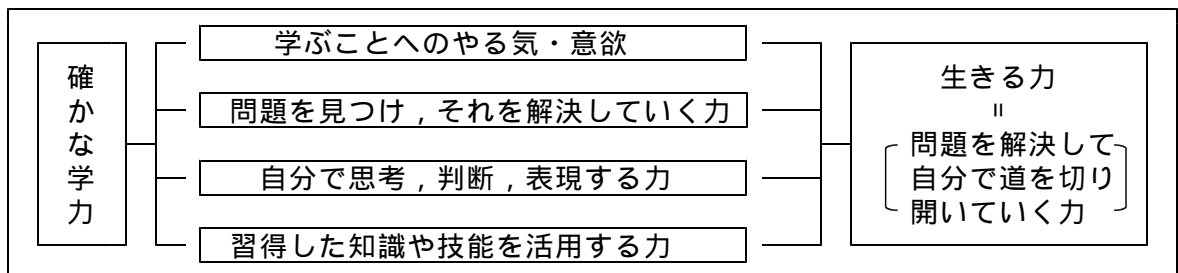
「確かな学力」の向上をめざす学習指導の工夫

(1) 研究の仮説

- (1) 学習意欲を高めたり，基礎基本の定着を図ったりする教材を開発し，学習指導を展開することで生徒のもつ「確かな学力」が向上するであろう。
- (2) 個に応じたきめ細かな学習指導を工夫することによって生徒の持つ「確かな学力」が向上するであろう。
- (3) 多様な評価方法を工夫することによって学習指導の改善がなされ，生徒のもつ「確かな学力」が向上するであろう。

(2) 「確かな学力」と「めざす生徒像」について

「確かな学力」の中味を次のように考え，個々の生徒に身に付くようにしていく。



めざす生徒像

学ぶことへのやる気，意欲のある生徒
 問題を見つけ，それを解決していくことのできる生徒
 自分で思考，判断，表現することのできる生徒
 習得した知識や技能を活用することのできる生徒

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年の各教科・各選択教科を中心として研究を進める。

(2) 年次計画

研究の3つの仮説については，研究の内容を以下のような視点で，3カ年並行して実践を積み重ねていくことで，検証していく。

仮説(1) 教材の開発について

- ・ 学ぶ意欲を高める教材
- ・ 補足的・発展的な学習を構築するための教材
- ・ 地域の素材を生かした教材や地域の教育人材

仮説(2) 指導方法の工夫について

- ・ 基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導
- ・ 個に応じた補足的・発展的な学習指導
- ・ 少人数，小集団による学習指導
- ・ 地域の素材や地域の人材を活用した学習指導
- ・ 問題解決の過程を大切にした学習指導

仮説(3) 評価の工夫について

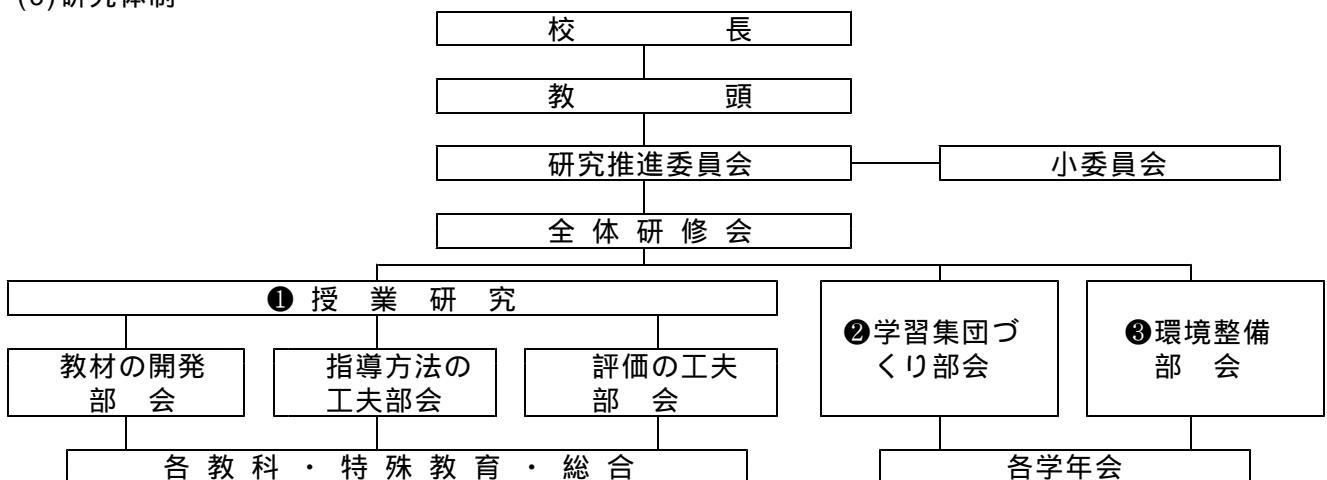
- ・一人ひとりのよさを見いだす評価
- ・進歩の状況や学習の過程を大切にしたい評価
- ・目標に準拠した評価
- ・生徒による自己評価，相互評価

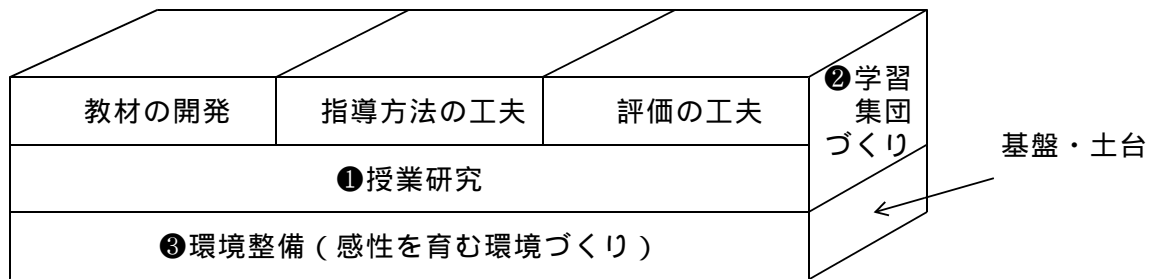
各教科・各選択教科における研究内容

3 年次並行して実践を積み重ねていくことを原則とするが，年次ごとに焦点化しながら研究を進める。(.....重点)

	1 年次 (平成 1 4 年度)	2 年次 (平成 1 5 年度)	3 年次 (平成 1 6 年度)
研究推進の視点	各教科で研究の方向性を探り実践を図る。	教科間でそれぞれの研究に学び合う。	研究をまとめ，各教科での更なる指導改善を図る。
教材の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度までの反省と本校が抱える問題の明確化 ・研究の見通しと仮説，及び方法の模索 ・教科部会の開催，各教科でめざす生徒像 ・どのような手だてでめざす生徒像にせまるのか ・校内授業研究会 3 回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年次の成果と課題をどのようにとらえるか。 ・各教科でねらう基礎基本の再確認 ・各教科でめざす生徒像の検証 ・校内授業研究会 3 回実施 ・公開授業研究会 (なし) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2 年次の成果と課題 ・最終年度の目標の再確認 ・校内授業研究会 ・公開授業研究会 (なし) ・研究のまとめ
指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導</u> ・個に応じた補充的・発展的な学習指導 ・少人数，小集団による学習 ・地域素材や地域人材を活用した学習指導 ・問題解決の過程を大切にしたい学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導</u> ・<u>個に応じた補充的・発展的な学習指導</u> ・少人数，小集団による学習 ・地域素材や地域人材を活用した学習指導 ・問題解決の過程を大切にしたい学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導</u> ・<u>個に応じた補充的・発展的な学習指導</u> ・少人数，小集団による学習 ・地域素材や地域人材を活用した学習指導 ・問題解決の過程を大切にしたい学習指導
評価の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのよさを見いだす評価 ・進歩の状況や学習の過程を大切にしたい評価 ・<u>目標に準拠した評価</u> ・生徒による自己評価，相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>一人ひとりのよさを見いだす評価</u> ・進歩の状況や学習の過程を大切にしたい評価 ・<u>目標に準拠した評価</u> ・生徒による自己評価，相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>一人ひとりのよさを見いだす評価</u> ・<u>進歩の状況や学習の過程を大切にしたい評価</u> ・<u>目標に準拠した評価</u> ・生徒による自己評価，相互評価

(3) 研究体制





平成15年度の成果及び課題

成果

- ・国語科，英語科において，通年，2・3年生全クラスの全授業において，T・Tによる指導や領域によっては少人数指導に取り組み，実践を深めることができた。
- ・数学科において，通年，2・3年生各クラスを等質な2つの集団に分けた少人数指導に取り組み，少人数指導のよさが明らかになってきた。
- ・指導者の単元の指導計画，評価の観点と生徒にとっての学習計画，自己評価カードを有機的に結びつけた指導を展開することができた。
- ・レディネステストで，生徒の学習状況の実態把握し，目標達成への細やかな手だてで，一人ひとりのよさを見いだす工夫をし，学習指導の改善に取り組んだ。

課題

- ・国語科や英語科でのT・Tによる指導と少人数指導のより効果的な指導はどうあればよいか。単元，題材，領域などの違いによる指導方法の工夫や評価の工夫。
- ・数学科での少人数指導と習熟度別指導について，それぞれのよさをふまえ，さらなる実践を深めていくこと。
- ・加配教員が配置されていない教科で，いかに少人数指導や小集団指導を取り入れて，個に応じたきめ細かな指導を展開できるか。

学力把握のための学校の取り組みについて

定期的な学力調査の実施（年2回：NRT - 4月，CRT - 2月に数学実施予定）

フロンティアスクールとしての成果の普及について

- 第1回校内授業研究会（7月14日/学区小学校，近隣小中学校へ案内）
- 校内研修会・パネルディスカッション（8月4日）
- テーマ「地域の中で中学校教育に期待するもの」
- パネリスト（地区内高等学校教諭5名，PTA2名，中学校教諭1名）
- 第2回校内授業研究会（11月10日/対象：庄内地区小中学校へ案内）
- 兼庄内教育事務所指導力向上研修会 兼学力向上フロンティア事業第3回庄内地区研究協議会
- 兼飽海地区教育研究会・酒田市研究所国語部授業研究会
- 校内研修会（2月19日/対象：飽海地区小中学校へ案内）
- 講話「義務教育における学力の向上について」宮城教育大学教授 相澤秀夫先生
- HPの開設（<http://www.sakata.ed.jp/dai1chu/>）

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
- 7～9学級 10～12学級
- 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
- その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
- 外国語 音楽 美術 技術・家庭
- 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無